

知りたいという衝動がわたしを突き動かす

僕はSFと推理小説が大好きだ。小学校3年頃から「怪人20面相」や「海底二万哩(マイル)」を学校の図書館で読んでいた記憶がある。今でも月に1冊程度は読む。本屋で偶然手に取った書籍を読むのが好き、Amazonは使わない。10月初旬に出会った「王とサーカス」(米澤穂信著:創元社文庫)を読んでひきこまれた。テーマはネパールで起こる王族殺人事件と大麻密輸を巡る殺人事件ミステリー、筆者は主人公女性ジャーナリストに考え語らせ、「書くこと・伝えること」の自説を展開する。いくつかの言葉と文脈が僕の頭脳、心につきささった。



海に突き出す岩場 in 稲村

☆「わたしが、知りたい。知らずにはいられない。だからわたしはここにいる。目の前の死に怯えながら、危険を見極めて留まろうとしている。なぜ訊くのかと自らに問えば、答えはエゴイズムに行き着いてしまうのだ。知りたいという衝動がわたしを突き動かし、わたしに問いを發させている。」(p224)

☆「BBCが伝え、CNNが伝え、NHKが伝え、さらに私が伝えることで完成に近づく、と。しかしでは、何が完成されるのだろうか? 詩でも絵でも哲学でもなく、たぶん『ニュース』でもない。わたしはなんの完成を目指しているのだろうか。」(p239)

☆「バラン(警官)は言う『軍人も密売人になれる。密売人も誇りを持てる。誇り高い言葉を口にしながら、手はいくらでもそれを裏切れる。ずっと手を汚してきた男が、譲れない一点では驚くほど清廉になる。…どれも当たり前じゃないか。あんた、知らなかったのか』 知っていた。わたしが生きているこの世界はどういう場所なのか、知っていると思っていた。けれどやはり、知らなかったのだ。だから、これほど心が止まってしまっている。」(p360)



混乱する子どもに寄り添い伴走する意味を問われる僕は、ミステリー・推理小説から学ぶことが多い。子どもと保護者の瞬間の表情、ふとつぶやく一言を掘り下げ広げ深めるから。出会った僕がいて、その悲しみ苦しみに耳を傾け、うなづき向き笑い合う、共に歩むだけだ、が。そう、僕を突き動かす、共に歩む衝動が。そして米澤は言う、「完成に近づく認識」と。

無知と偏見が分断する かわいそうな子はいない

フリースクール Largo(NPO 法人鎌倉あそび基地)で僕はファシリテーター(?...)の役をいただき1年がすぎる。研究所の鎌倉子ども若者支援団の拠点でもあり、月に2回ほど顔を出す。10月17日(水)、残念で悲しい出来事が起こり、水澤代表がすばやく行動した。



『昨日スタッフの子のAが、お昼前に図書館で予約していた本を借りたのですが、手続きが終わって鞆に本をしまっているとカウンターにいた図書館の方々の言葉が耳に入り大変つらかったとのことでした。本人談ですが…あまり離れていないところで本をしまっていると、「あの子不登校なのよ、うちの子にはああはなってほしくないわ」

「よく平気で来れるわね」

「ちょっと、聞こえちゃうわよ、かわいそうな子なんだから」

これまでも一人で何度か出かけていましたが、こんなことを言われたのは初めてだったそうです。自分の母親と変わらない年齢の大人たちが、本人を前にしてあからさまにいうのを目の当たりにして、驚くとともに、これが不登校の子をめぐる環境の現実なのかと、経験談として聞いたことはあったもののかなりショックだったとのことでした。

私も、冷静になれないままに図書館には良くないとも思ったのですが、これは図書館としての正式な対応ではなく、個人的な見識の問題とと思いましたので、だとして、その日のうちにお話してきちんと仕事に臨んでいただきたいと考え、すぐにご挨拶に伺いました。

名刺とパンフレットをお渡し、きちんとしたご挨拶が遅れたこととお詫びしたうえで、A からの話をそのまま伝え、フリースクールの子どもたちへの理解と、個人的なお考えは耳には入らないようご配慮いただきたいとお願いし、あわせて今後ともどうぞよろしくお願い申し上げますとお伝えしてきました。ちょっと泣きそうになっちゃいました。冷静に努めたつもりでしたが、ごめんなさい。

責任者は「図書館としては学校に行っていないお子さんたちの居場所になってほしいと思っております。配慮の足りない行動をしてしまい申し訳ありません」とお詫びしてくださいました。

その後ふかふかに戻りスタッフにこの件を話したところ、きちんと近隣のお店などにごあいさつ回りをすべきでしたねといわれ、本当にその通りだったと思いました。なるべく早く行動に移したいと思います。皆様のご意見等お聞かせください。(鎌倉あそび基地代表 水澤麻美)

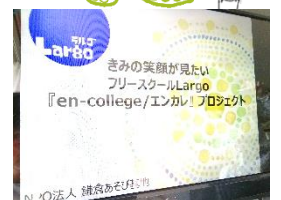


僕は子ども若者を応援する活動をしているが、「教育は子どもの権利であり、教育の義務とは大人の義務」、「大人の義務は就学であり、学校に在籍していること」、「在籍していれば学校を利用するかしないかは子どもの権利」と理解している。昨年衆参国会で「義務教育確保法」が可決されたのは“就学(在籍)”から“修学(学び)”へ進む改革、子どもが『学ぶ』を求めていることを実現する動きであると理解している。学び＝学校の問題点もあるが…

図書館職員の「ああなってほしくない」「平気で来れるわね」「かわいそうな子」発言は、図書館職員個人の問題ではないと考える。行政全体の無知が偏見となり、子どもを分断する人権侵害になっていると考える。憲法・法律に基づいた行政サービスができていない実態が“今ここにある”。

かながわボランティア基金 21 事業プレゼン審査を通過

NPO 法人鎌倉あそび基地、今年から展開を始めたフリースクール Largo(ラルゴ)はめでたく基金 21 プレゼンに合格しました。10月23日、県民センター審査会場の緊張感は、2006年から5年間アンガージュマンで経験しただけに、僕は感動してしまいました。1年かけ計画し、4・8月プレ事業で歩んできました。学童ふかふか・Largo そして法人理事さらに地域の協力者の穏やかで美しいパワーが、結実した結果です。SDGs を基調に鎌倉の子どもたちを地域で育てるエンカレ、学校へ行かない子どもたちのフリースクール、この2事業は「(子どもたち)誰も置き去りにしない鎌倉」を推進し、確実に鎌倉を変革していきます💖 応援ください。



生きるリアリティを取り戻す仕方を見出した時に、歴史は新しいページを開く(p108)

コラム風「現代社会はどこに向かうかー高原の見晴らしを切り開くこと」(見田宗介著:岩波新書 1722)を座右の書と僕は靴に忍ばせる。大学時代から勝手に師と仰ぐ社会学者である。以下に自分への問い等を書き抜いてみたが、難解な著述を理解はできていない、だから靴に秘めている(笑)。冒頭の著書「王と…」に表現される“衝動”が結論のように感じながら。



∞ ∞ ∞ ∞ ∞ ∞

㊦「経済競争の脅迫から解放された人類は、アートと文学と思想と科学の限りなく自由な創造と、友情と愛と子どもたちとの交歓と自然との交感の限りなく豊饒な**感動**とを、追求し、展開し、享受しつづけるだろう。」(p17)

問い 経済競争の脅迫、社会的ひきこもりの若者と親の開放とは、交歓と交感が答え？

㊦『『かせぐための仕事』『成功のための仕事』というイメージから、『社会的なく生きがい>としての仕事』、共存の**環**としての仕事というような、重心の変容があるのではないか」(p70)

問い 仕事＝賃労働、その先にある「この仕事が好き」という衝動が、生きがいと環へ？

㊦『『近代』という時代の特質は人間の生のあらゆる領域における<合理化>の貫徹ということ。未来におかれた「目的」のために**生を手段化**するということ。現在の生をそれ自体として楽しむことを禁圧することにあつた。先へ先へと急ぐ人間に道ばたの咲き乱れている花の色が見えないように、子どもたちの歓声も笑い声も耳に入らないように、現在の生のそれ自体としてのリアリティは空疎化するのだけれども、その生のリアリティは、未来にある「目的」を考慮することで、満たされてる。…「現代」の特質は、人々が未来を失ったということにあつた。』(P110)

答え 今をあきらめると、未来が、見えなくなる。

㊦「環境容量をおりやりにでも拡大しつづけるという強迫観念は、経済成長を無限につづけなければならないというシステムの**脅迫観念**から来るものである。あるいは、人間の物質的な欲望は限りなく増長するものであるという固定観念によるものである。」(p122)

答え 強迫観念や固定観念は、社会的かつ時代的な拡大欲・物質欲が生み出す。

㊦「飢えと荒廃と怨恨とテロリズムとの問題は、その根源から解消する。(文化人類学の報告するところによれば、ある部族の「富める者」「豊かな者」ということばは、「多くを人に与えることのできる人」という意味であるという。富の究極の目的は**贈与の喜び**であると。)」(p131)

㊦「野本三吉さん(加藤彰彦 社会福祉) 横浜市立大学最終講義…の核心は、<福祉は**衝動**である>ということであつた。福祉というものの現場の現実の、きびしさ、みにくい部分までをも含めて、そのすみずみまで身体で知り抜いてきた…そのうえでなお<福祉は衝動である>と言い切るとき、それは、きれいごとではないと思った。目の覚める認識であると思った。福祉という仕事は、正義とか善意とかいうことの前には、人間の深い**欲望**であると。」(p139)

∞ ∞ ∞ ∞ ∞ ∞

限りなく自由な交歓、共感の環、贈与の喜び、そして衝動…。数多の出会った子ども若者の苦戦への回答が、ここにあると安堵する僕がいた。「したい」との“思い”と、「だめ」との“制止”に葛藤する子どもたち。湧き上がる子の衝動(非合理的)を、未来の為(合理的)と大人は制止し、社会の為と子どもの未来は手段化される。この現実が、教育・学校にある。

“好き”、“したい”衝動を、リアリティを取り戻す学びの根っ子にしたい。

それぞれの風

○不登校小学生G男母の継続する相談。ゲームの課金を巡る親子の口論にG男が「私は」口調で母を説得にかかったという。襟を正す発言「私は」、G男の一人称発言の成長に母は感激。向き合う母と自立成長するG男。小学校2度目の学校へ行かない日々は約1年、計2年有余に。家で成長し、両親を越え始めた予感を母と共有。

○20代働きその軋轢に精神的病となった40歳女性。その母と某市役所へ相談、年金、障害福祉、生活福祉へ計2時間半。優しい窓口対応は法の解説とサービス利用不可を、やんわりと伝えてくる。「一緒に考えましょう」「こういう方法も」が聞こえてこない。年金2/3未払い、親の財産、病気は自己責任(本人の責務)が行政の基本サービス。税金がセイフティーネットではない、納税の義務が妖怪のよう。憲法25条生存権の実現は遠い。10/17am

○30歳 M 男の家庭訪問へ。今年はマジスティック事業の涌井貴暁さんと共に寄り添いを進めている。月に一度研究所へ両親と来るが、僕たち2人と車に乗ってドライブしたいと発案し2回目の訪問をした。今回も固辞され、しかしリビングへ案内され母親と4人で雑談会となった。僕の寄り添いではM男は最長の15年。出会いは中3の一時、19歳で再び、その後NPO 法人で4年間、さらに研究所で6年目となる。来月は研究所へ来る。良い関係でいたい、長くなるのが気がかり。10/18pm



○横浜市港南区の保護司と児童・生徒担当教員の年1回の研修会で、不登校・社会的ひきこもりの子ども若者について講演をさせていただいた。視点は社会的に分断される不登校・社会的ひきこもりを理解し、子ども若者の成長を偏見なく応援できる地域づくり。身近に不登校・社会的ひきこもりの子ども若者がいる方々が5人、そういう子ども若者を熟知している方が2人。「健全育成」従事の方々も、まだ身近な課題ではない現実です。会場は新しくなった港南区役所(右写真)隣、少年鑑別所が向かい。教員時代 H 男等に面会に行ったことを思い出したが、現代的清潔感あふれる場所に、今は昔。10/19pm

○ひきこもり発信プロジェクト(新舛秀浩代表) & 逗子応援団会議主催の講演会「ひきこもる心を理解する」を丸山康彦代表(ヒューマンスタジオ in 藤沢)をお招きした。



後半は新舛さんとの対談で、午後のひと時を過ごしていただいた。約80名の参加者で大盛況、若い方も多く世代横断的な会でした。当事者の理解と肯定を基調に、「心が満たされる言葉(by 新舛)」と「願いと思いが統合される時(by 丸山)」が共鳴、当事者を中心に置く濃厚な集いでした。10/28

11月予定 ○4日(日)pm2: 横須賀応援団会議・マジスティック・リトルエジソン in 横須賀サポセン

○14日(水)pm3時: 講演「思春期の子どもとのかかわり方を学ぶ」in 横浜市立市場中学校 PTA

○18日(日)pm1時半:(参加)臨床発達心理士会群馬支部研修会『「不登校」をどう支えるか フリースクールの現状と教育機会確保法から考える』 ○19日(月)pm7時: 横須賀市支援教育委員会 ○25日(日)pm1時: 逗子応援団会議・ひきこもり発信プロジェクト & 3時半: ゆずりはの会 in 逗子市市民交流センター ○鎌倉市教育センター: 2日(金),6日(月),9日(金),13日(火)富士塚小,15日(木)大船小,19日(月)深沢小,20日(火),27日(火),30日(金)

○Largo: 17日(土),29日(木) ○研究所相談: 1日(木),7日(水),12日(月),22日(木)

【発行編集: 滝田衛】住所: 鎌倉市七里ガ浜東2-31-12 携帯: 09072124055

●メール: qq5656r9@happytown.ocn.ne.jp ●研究所ホームページ: <http://shichirigaoka-lab.jimdo.com/>

●応援団フェイスブック: <https://www.facebook.com/kodomowakamono.ouendan/>